

高原 一隆 ゼミ I・II

TAKAHARA Kazutaka Seminar I・II
○参加学生数 22名

水野谷 武志 ゼミ I・II

MIZUNOYA Takeshi Seminar I・II
○参加学生数 11名



高原 一隆
地域経済学科
教授



水野谷 武志
地域経済学科
准教授

商店街活性化のための基礎調査

研修期間・研修先

- 2008年**
8月18日 訓子府に移動、
訓子府町農林商工課（訓子府町の概要）、
町内主要施設の巡回
8月19日 店主へのアンケート調査、
消費者へのアンケート調査
8月20日 訓子府町商工会（商工会の歴史と商店街の現状）、
消費者へのアンケート調査
8月21日 斜里町に移動、
ウトロにて現地の漁師から概要説明
8月22日 帰札
2009年
2月23日 調査結果報告会（訓子府町）

◆ 合同研修目的

北見市の西側（つまり訓子府町に隣接地域）への大型店が立地することによって、訓子府町商店街の衰退が顕著になっている。その実態を店主、消費者へのアンケートを通して明らかにし、小規模都市の商店街再活性化の方向を考える。

◆ 合同総括

この研修・調査は水野谷ゼミと合同で総勢33名というやや大がかりに行った共同調査である。研修・調査の主要な対象は訓子府町内の商店街に絞った。近年、小規模都市に限らず、かつて街の中心的機能を担っていた中心市街地の商店の多くは人通りが少なく閑散とした状況で、売上も大きく減少するなど街としての機能を失い、衰退の道を歩んでいる。訓子府町商店街の現状もその例に漏れない。商店街の衰退の原因として、近郊への大型店の出店の影響があげられる。

それも大きな要因であるが、同時に地域の構造変化にともなう地域内の商店にも課題はないのだろうか。この研修・調査は双方からの衰退要因を店主と消費者双方からのアンケートを通して明らかにしようと試みた。アンケートは町内ほぼすべての商店56店とアットランダムに消費者を対象に行い、消費者からは70歳未満の消費者190人、70歳以上129人から回答を得た。店主に特徴的だったのは後継者不足であり、消費者に特徴的だったのは70歳以上の消費者の半数が町内の商店を利用するという結果であった。これから一層高齢化が進む日本社会そして訓子府町にあって、人々の日々の暮らしにとって地元の商店街がどのような意味をもつのかを考え、それに対応する中心商店街の再活性化に向けた対策が求められていることを強く感じた。

学生研修記（高原ゼミ）



木村 博文
地域経済学科2年
室蘭栄高校出身

活力ある商店街の復活を目指して

今回の地域研修は、4泊5日の日程で道東の訓子府町に行ってきました。地域研修のテーマとして、『訓子府町の商店街を活性化するための基礎調査』をすることが目的でした。調査場所は、町内のスーパー前や町内の各世帯、農村などさまざまな場所に足を運んでアンケートを取ってきました。商店街に対する意見として、商品の値段が高い、品揃えが少ないなど全体的に否定的な考えを持つ人が多かったように思いました。しかし、否定的な考えの人の中でも商店街に対する思いが非常に強い人や、商店街の衰退は非常に寂しいという人もたくさんいました。これからは町全体が一枚岩となって、商店街活性化に力を入れ、大型店舗に負けないサービスを展開していかなければ、商店街の衰退は避けられません。これからの訓子府町の商店街活性化の活動に注目していきたいと思えます。



高齢者にアンケート調査を実施したゲートボール場の風景



じゃがいも工場の様子



最終日に行った知床の海



バスで訓子府町に到着（初日）

旧訓子府駅

幼稚園前での聞き取り調査風景

中心商店街の様子



西本 亜美
地域経済学科3年
札幌清田高校出身

町全体の活性化を目指す訓子府

訓子府町は本当に廃れている。実際に調査に訪れる前に言われていました。その通りで人通りはほとんど無く生き活きとした様子はありませんでした。私たちはどうしたらこの街を活性化できるか？というテーマの元に商工会の方からヒアリングをし、一般消費者、店主、高齢者の3種類のアンケート調査を行いました。一般消費者用のアンケートでは中心市街地だけではなく、農村部に住む方々たちの所や北見市に近い所に住む人の所にも訪れました。ふるさと銀河線の廃止によって周辺地域から訓子府へと訪れる人が減少しただけではなく、町民の活性化への意識も薄れてきているように感じました。しかし中には活性化を望んでいる声も多くあり、協力するという方もたくさんいました。これから隣の北見市に負けない町づくりをしていって欲しいと思います。



訓子府商工会でのヒアリングの様子



菊池一春町長を囲んで役場前にて



いざ調査へ向かおう!



合宿最終日に訓子府駅跡で打ち上げBBQ

学生研修記 (水野谷ゼミ)



酒井 雄樹
地域経済学科3年
岩見沢西高校出身

商店街の未来のために

私達、水野谷ゼミの地域研修ではゼミのテーマである、地方商店街の活性化をもとに、4泊5日で訓子府町とウトロに行きました。訓子府町では、事前で作っていたアンケートに回答していただきました。アンケート結果をみると、消費者は衰退傾向にある商店街をなんとか利用して活気を取り戻したいのだが、値段や品揃えを比べるとどうしても、北見に行ってまとめて買ったほうが良いという感じでした。しかし、このまま商店街が衰退し、買いたいものが買えないような状況になってしまうかもしれないので、目先のことを考えずに、少しでも商店街で買い物をするようにしたら良いのではという結論に至りました。最終日にはウトロに行き、地元漁師の遠藤さんから、知床に生息するサケ科魚種の新しい価値を見出す活動について貴重な話も聞け、とても充実した5日間でした。



左右とも/ゲートボール場での聞き取り調査



左右とも/スーパー前での聞き取り調査風景



旧訓子府駅前にて



訓子府町農林商工課による講演会



寝る前に明日の調査準備



佐藤 大地
地域経済学科2年
札幌新川高校出身

商店街に元気を!

水野谷ゼミの今年の研究テーマは「地方商店街の実態調査」でした。研修先は道東の訓子府町という町。「人口減少や購買力の低下で悩むこの商店街に再び力を取り戻すことはできないか?」とゼミ生みんなで知恵を絞って、問題解決の為になにが必要なのかということを知るための調査票を作りました。その調査票を持っていざ、出発! 地元の人に聞き込みを始めました。その調査でわかった事は、北見にあるイトーヨーカドーなどの大型小売店の影響で、「買い物が一度で済むから」、「そっちのほうが品揃えも豊富で安いから」などの理由で町内の購買力が低下していることでした。町内の店主の意見を聞くと、まちづくりに必ずしも協力的ではない人もいることがわかり、店・消費者・行政の全員の協力がないと商店街に再び力を取り戻すことは難しいということがわかりました。

高原ゼミ・水野谷ゼミ合同地域研修

現地報告会 2009年2月23日 訓子府町

高原ゼミ・水野谷ゼミでは現地を再び訪れて、「地域研修」の成果として、報告会を実施した。現地報告会に参加した佐々木敬一君と山下壘君に、今年度地域研修の取り組みについて感想を語ってもらった。

佐々木 敬一 君

地域経済学科3年 高原ゼミⅡ



僕は日高地方の様似町の出身なのですが、大学受験時の大学選びに地域経済学科の地域研修の事を知り、地方のことが学べる面白い取り組みだと興味を持ち入学しました。2年時の地域研修は、3年生と調査の分担などを行ったのですが、お互いの調査に実感が持てなかった反省点などを生かし、今年は地域調査の方法に工夫しました。

現地ではヒアリングとアンケート調査の両方を行い、朝9時から晩まで毎日歩きっぱなしで大変でしたが、思いを必死に伝えると答えてくれる人たちが多く、手応えを感じました。地域研修はいろんな方面からみた意見、多角的な見方ができるんじゃないかと感じました。

2月に行った現地報告会では、役場の人たちからは「ふだん町民に聞いても、なかなか率直な意見が出てこないけど、調査には深い意見が出ていて良かったよ。今後、具体的な意見や提案を是非聞きたい。」と求められました。

今年の夏休みには、その宿題に答えるために4年生のゼミで訓子府町を訪ねる予定です。就職など進路のことも含め、これからも、地域に密着した何かに関わって行ければと考えています。

●訓子府町くるネッ(旧ふるさと銀河線訓子府駅)での現地報告会の様子



山下 壘 君

地域経済学科3年 水野谷ゼミⅡ

訓子府はいい町でした!コンビニでも声をかけてくれます。調査でも、気付いたら1時間以上も話してくれる人たちもいて。とにかくしゃべりました。2月の現地報告会はとても緊張しましたが、町長さんには、いい機会だからと励まされました。このような機会が多いと、やったことが生かされると思います。

水野谷ゼミは、2年生との合同ゼミなので、2、3年生の連帯、チームワークを大事に考えています。大変なことをやりたい、忙しいところでやりたいとゼミを履修しましたが、厳しいけれど楽しい!

水野谷ゼミはインゼミ(日本学生経済ゼミナール大会:通称インゼミ)にも参加しているので、そちらへの参加準備も大変でした。地域研修のアンケートを集計、論文にまとめてインゼミで発表しましたが、地域の現状を知らないような本州の他大学生とも議論する機会に恵まれ、とても刺激になりました。

ゼミ同士の交流が生まれたのも地域研修のおかげです。高原ゼミの報告書はすごい!とても参考になりました。

将来は、いろいろな町を見てみたい。小さな町とかに行ける機会があればいい。訓子府町に行かなければ、そういう気持ちにならなかったでしょう。就職先とか、ずっと先の話ですが老後とか住んでみたい、そう思いました。



●現地報告会が取りあげられた北海道新聞オホホク版の紙面(2009.2.25.)